第十二回 琉球・中国交渉史に関するシンポジウム 論文集

第十二届中国琉球历史关系学术研讨会

謝　必震 氏

田名　真之 氏

李　健民 氏

渡辺　美季 氏

徐　勇 氏

王　少芳 氏

劉　洪勝 氏

王　徵 氏

第十二届中国琉球历史关系学术研讨会

口絵１　「康熙帝賜琉球国王尚貞勅諭写」　宮内庁書陵部所蔵（本文 63頁参照）

口絵２　勅諭写の外筒
宮内庁書陵部所蔵
（本文 66頁参照）

第十二回シンポジウムの開催にあたって

沖縄県教育庁教育指導統括監　與那嶺　善道

尊敬する中国国家檔案局副局長・中央檔案館副館長　胡旺林先生
尊敬する中国第一歴史檔案館館長　孫森林先生
尊敬する専門家、研究者の先生方
ご出席の皆様、おはようございます。

本日、「第十二回琉球・中国交渉史に関するシンポジウム」の開催にあたり、沖縄県教育委員会を代表いたしまして、心よりお祝い申し上げますとともに、私たち一行を温かく迎えていただいた中国国家檔案局、中国第一歴史檔案館の皆様に心より感謝申し上げます。

早いもので、一九九一年に沖縄県教育委員会と中国第一歴史檔案館が学術交流のため、覚書を締結してから二十七年の歳月が流れました。この間、私たちは様々な交流事業を通して、互いに学び合い、友好を深め、数多くの成果を残してきました。今回で十二回を数えるシンポジウムや、沖縄への研究者招へいなどの人的

交流においては、参加者数のべ一〇〇人、論文数は七十七本を数え、日中における琉中関係史のみならず、日中関係史・東アジア関係史研究の発展に寄与してきました。

また、この間、中国第一歴史檔案館は、『清代中琉関係檔案選編』や『清代琉球国王表奏文書選録』など檔案館が所蔵する琉球関係檔案史料集の編集刊行を積極的に進めてこられました。中でも、二〇〇五年から現在まで続く『中琉歴史関係檔案』は、我々にとって、檔案館に残された琉球関係檔案史料の概要を確認することができる非常に貴重な史料集です。この重要かつ意義深い事業を進めていただいている中国第一歴史檔案館ならびに関係職員の皆様に敬意を表するとともに、心より感謝申し上げます。

沖縄県は琉球王国の時代から、中国と海をはさんで、人とモノの頻繁な往来により友好の歴史を積み重ねてきました。沖縄県教育委員会が編集刊行を進めております琉球王国の外交文書集『歴代宝案』には、まさしくこの間の両国の歴史が克明に記されております。そこには琉球・中国間の冊封・朝貢にかかる外交交渉から、遭難者の救助・送還まで、数多くの琉球人・中国人の姿が生き生きと描かれております。

また、『歴代宝案』には、琉球と中国地方政府、さらにはタイやベトナム、マラッカといった東南アジア諸国との往復文書が記録されていますが、現在、それらの文書の原本は残されておりません。これらの記録を復元して編集した『歴代宝案』はまさしくアジアにおける唯一無二の記憶遺産であり、アジア友好の歴史を証言するものと言えるでしょう。

『歴代宝案』は、まさに先人達が私たちに残してくれた「代々受け継がれていくべき宝」といえるでしょ

う。今後は我々がこれをどのように受け継ぎ、後世に残る歴史の記憶として深く刻みつけていくのかが、問われているのではないかと思います。

『歴代宝案』の原本は失われてしまいましたが、幸いなことに、複数の写本が残され、一九八九年、沖縄県はこれらの写本をもとに復元事業を開始しました。歴代宝案編集事業は、中国第一歴史檔案館の協力を得ながら、その後順調に進み、二〇一六年には校訂本十五冊が完結いたしました。現在は訳注本の残り四冊の編集刊行作業を進めております。そして、近い将来、歴代宝案のデジタルテキスト版をインターネットで公開するための準備も進めているところです。

今年は、ちょうど日中平和友好条約締結四十周年の年になります。この間、日中両国は、ともに協力して平和友好の道を歩み、今日の繁栄を築きました。沖縄県教育委員会と中国第一歴史檔案館の二十七年にわたる学術交流事業は、着実にこの一翼を担ってきたのだと自負しております。そして今後も、我々はこれまでの輝かしい実績を礎に、さらに事業を発展させ、両国のさらなる平和と友好の未来を築く一助となるべく努力していきたいと思います。

本日は、日中両国の八名の研究者が発表されます。シンポジウムでの活発な議論をとおして、琉中関係史にまた新たな光が当てられ、さらなる研究の進展へとつながることを期待します。

結びに、シンポジウムの成功を祈念するとともに、シンポジウム開催のためにご尽力いただいた、中国第一歴史檔案館関係者の方々に感謝申し上げ、あいさつといたします。

二〇一八年十月二十九日